

平成 26 年度 第 4 回静岡市生涯学習推進審議会 会議録

1. 日時 平成 27 年 1 月 9 日（金）午後 2 時～午後 4 時

2. 会場 アイセル 21（女性会館）研修室

3. 出席者

【委員】（13 名）

猿田委員、渋谷委員、磯山委員、石川委員、弓削委員、林委員、川合委員
青野委員、中野委員、杉井委員、飯塚委員、日野委員、吉田委員

【事務局】

大川生涯学習推進課長、岸端参事兼課長補佐、島田事業係長、井上主査
藤本主任主事

4. 欠席者 菅野委員、市野委員

5. 傍聴者 1 名

6. 議題

1) 答申の報告

2) 生涯学習推進大綱案

7. 会議内容 下記のとおり

平成 26 年度 第 4 回生涯学習推進審議会

猿田委員 事前に資料をお読みになって、お気づきになったことや感想、疑問点をお話しいただいて、その上でまた改めて全体で協議したいと思いますので、渋谷委員から一言ずつお願いします。

渋谷委員 内容はもちろんですけども、フォントの使い方や大きさ、デザインなどがとても柔らかく、色使いを含め優しい作りになっていると感じました。

パブリックコメントについては、本当に色々な方が詳しく真剣に読み込んでいただいて、それを踏まえて修正をされ丁寧にまとめていただき、より分かりやすくなったのではないかと思います。

不明な点としては、「スパイラルアップ」が非常に重要な概念として出てくる中で、「スパイラル」や「スパイラルアップ」はどれだけ共有されている言葉なのかということです。

大綱 3 ページの図は、「スパイラルアップ」をイメージして渦巻き状になっていますが、図の説明がないので、これだけを見て「スパイラルアップ」だということはわかりにくいですね。

また、10 ページには「スパイラルアップ」という言葉だけが出てきている。

そのため、図と「スパイラルアップ」という言葉と一緒に説明するともっと分かりやすいのかと思います。

今回の大綱の大事な概念である「個人とまちづくりが関わりながら向上していく」というイメージの伝え方を、言葉と図と両方で伝えられるような工夫がいのかなと思いました。

猿田委員 ありがとうございます。磯山委員お願いします。

磯山委員 全体的に議論を重ねてきたことがきちんと反映されていて、非常に文章も分かりやすくなっていると感じています。

一方で、後半に行くにしたがって急速に文章が難しくなっているのかなという印象を持ちました。

一つ気になったのは、パブコメの対応表のところで ESD の発想について「自分の暮らしをとりまく社会問題について自分ごととして関心を持つ」という表現が ESD の基本的な考え方だという風に書かれていて、この記述で大丈夫なのかなという疑問を持ちました。

猿田委員 ありがとうございます。石川委員お願いします。

石川委員 新しく作られたこの冊子につきましては、今お話しされました通り非常に分かりやすくなったと思います。その中で2、3感じたことをお話しさせていただきます。まず最初に、目次は設けないのですか。

事務局 設けます。

石川委員 分かりました。

あと、文章的な“てにをは”につきましてはいくつかあるので後程、事務局に私の“てにをは”の考え方をお渡しします。

文章的に非常に分かりやすくなったというお話をさせてもらいましたけれども、ちょっとひらがなが多いのかなということが気になりました。漢字を使って良いものまでひらがなで表現しているものから、読みにくさが若干あります。その辺を全体的に見直していただくとありがたいです。

例えば、引っかけたのは「話のなかで」という「なか」という字は漢字を使ってもいいのではないかと。そういったひらがなを漢字に変えた方がいい箇所が幾つかありますので、それについて検討していただければと感じました。

逆に、難しい漢字があって、これは読まれている方が理解しにくいかなというのが6ページの「包摂」という言葉です。普段聞き慣れない言葉ですから、言葉に注釈を付けるなり、表現を変えるなりしていただいた方がいいのかなと感じております。

次に、18ページ「録音図書の作成」といきなり出てくるのですが、録音図書がなんなのかを書いた方がよいと思いました。

また、推進計画において、それぞれの施策に「主な事業」を2・3つずつ挙げてありますが、選別して挙げてあるとは思うのですが、これ以外に主な事業というものはないのかも一度精査していただければと思います。他にもまだ市役所の事業で取り組んでいるものもある気がします。

それから、20ページ「④学習相談の充実」の説明文として「相談することは人を信頼し、支え合い」とありますが、「相談すること」と「人を信頼し、支え合うということ」がすぐには結びつかないなという感じがします。さらに「人間関係を築く」とつながっているので、相談することが人間関係を築くというところまで結びつくのかなと違和感を感じました。

また、推進計画における「現状と課題」のところで、生涯学習をどのように活かしているのかというグラフが出ております。そこに「地域や社会での活動に活かしている11.9%」とありますね。

生涯学習の最終的な目的は、地域や社会での活動を通して豊かなまちづくりにつなげることになろうかと思えます。

でも、生涯学習の活かし方として「自分の人生が豊かになった」「健康の維持・増進」ということもそれはいいのかなど。まちづくりまで繋げなくても、これも立派な生涯学習ですから、これはこれでいいのかなと思えます。

全体的な流れを見ると、まちづくりまでいかないといけないのかなという印象を受けましたので、その辺りが気になりました。

それと28ページ「①生涯学習関連施設の整備」とありますが、生涯学習の関連施設とはどういう施設になるのかということが分かりにくいですね。

その説明文として「静岡市には、生涯学習施設以外にも」とありますが、生涯学習施設とは何を指しているのか定義を示さないと、わかりにくいと思えます。

また、私は、スポーツ関係の代表として委員に就任しておりますが、計画の中でスポーツ関係が文章に載ってこないで、ぜひ、スポーツ云々という表現を取り入れていただきたいと思えます。

猿田委員 ありがとうございます。ここまでのところで少し事務局でお答えいただけるものがあればお願いします。改めて続きはその後でお願いします。

事務局 まず、生涯学習施設についてですが、生涯学習施設条例の中で「生涯学習センター・交流館」を生涯学習施設と謳っています。ただ、市の職員以外は分かりづらいことが分かりましたので、表現として「生涯学習センターや交流館以外にも」と修正したいと思えます。

また、確かにスポーツに関する表記は少ないですので、その点は具体的に関連事業や事業の紹介の中で取り入れていきたいと考えています。

「学びを活かすための支援」というところで石川委員のおっしゃったように、「自分の人生が豊かになる」「自分の健康増進」も生涯学習だというご指摘はその通りだと思います。

11ページの図における「自己学習」「相互学習」「自己実現」「市民活動」のどの分野も等しく大切であると、私もそのように思っております。

ただ、例えば「自己学習」の分野だけにいたところを、「市民活動」の分野に広げてみる、自分の為だけではなく社会の為に活かしてみると、また違った新しい学びに出会うことができるといった話が、以前の審議会でも出てきていましたが、そのように学びをもう少し広げてみると、また新たな学びに出会えるかもしれないという意味で、まちづくりや地域活動、社会に活かしてみたいという思いはあります。

ただ「活かさなければいけない」と受け取られる表現になっている部分は改めたいと思えます。

それから、20ページの「学習相談」について、子育て相談をやっている事業課の方から、子育て相談はお母さんとの信頼関係を築くために行っている事業でもあるので、そういった文言を入れてもらいたいという話がありましたので今の表現となっています。

でも、学習相談から突然、人間を信頼するという書き方では話が飛躍しているともいえますので表現

を考えたいと思います。

「ひらがなが多い」ことや表記の問題については修正をしたいと思います。

スパイラルアップのところは、説明を理念のところに入れる形で対応させていただければと思っています。ESDについては渋谷先生がお詳しいと思うので、のちほど相談させていただきます。

猿田委員 ありがとうございます。答えを頂ける部分が多かったように思っております。

言葉の概念で曖昧さが残るようなところについては、生涯学習施設であればセンター、交流館と書けば誤解がないわけで、あるいはESDにしても包摂社会などの言葉遣いについても、脚注を入れれば誤解のない形になります。

その点と、「中学生でも分かる」という方針とのバランスですね。そこは、親しみやすさを出しながらも、改良の余地があるかと思います。今いただいたご意見だけでもかなり宿題が出たなと思います。それでは弓削委員、引き続きお願いします。

弓削委員 今のお話を聞いていて、「生涯学習施設」「生涯学習関連施設」という考え方はなかなか難しいなと感じました。

「生涯学習関連施設」は、例えば美術館、図書館、科学館、音楽館となっておりますが、体育館も入ってくるのだろうか、文化会館も入るのかなと言い出すと、多分色々あるだろうなと思います。

そうすると、「生涯学習を支える基盤づくり」の指標として「生涯学習施設の利用者数」が挙げられていますけれども、これも生涯学習施設及び関連施設ということになりかねないのかなと思います。それは把握できるのだろうか、それが今回の指標としてもっとも意味のある形になるのだろうかという疑問が出てきます。

成果指標の中には「生涯学習を行っている市民の割合」という指標もあって、その指標で様々な施設を利用している人たちの把握できるので、あえて施設の利用者数をカウントする必要はないかもしれないと感じました。

そして、学びの質をきちんと把握するにはどういう指標があるのか、それこそ先生方に教えていただきたいと思います。そういった意味で27ページの指標については、大いに検討する余地があるのかなと思います。

猿田委員 では続けて飯塚委員お願いします。

飯塚委員 手にとって読みやすいとか、市長のお考え「中学生でもわかる」を実現した一つの資料ができたと思いました。

漢字等では先程、石川先生がおっしゃったように一つだけ難しいところがあったので、そこだけ変更されればいいかと思います。

猿田委員 ありがとうございます。それでは続けてお願いします。

林委員 何度も書き直していただいて、それを見ながら参りました。

一番初めに思いましたのは、静岡市の特色というものが分かりにくいことです。

それは「中学生にも分かりやすいような言葉で」という方針によるものなのかなと、これまでの議論を思い出しながら聞かせていただきました。

指針の表現として「わたし」と書くのであれば、「静岡市はこうして誰にも分かるような表現で施策を展開していきます」という説明がないとやはり分かりにくい。そのため何度も「わたし」という言葉にこだわらせていただいております。

次に、「主な事業」として1、2つを挙げられておりますが、石川さんがおっしゃる通り誤解をされると思います。「主」とは言いながらも、これだけかといふ読んでしまいがちであると。例えば、情報の発信はインターネット・ホームページと言われると、それから取り残された人たちはどうすればいいのか見えてきません。主な事業を二つだけ取り上げていることの難しさを感じています。

また、「学びを活かせる場づくり」という表現の「活かせる場」は、文章的にどうかと気になります。「学びを活かす場づくり」あるいは「学びを活かすことができる場づくり」ではないでしょうか。「活かせる場」と言うと非常に曖昧になってしまうかと思えます。

その他の文章表現は、色々ありますけれども、これは担当者に私なりの意見を差し上げていきたいと思えます。

猿田委員 ありがとうございます。それでは川合委員、続けてお願い致します。

川合委員 本当に大変だったなというのが第一の感想です。

最初に頂いた資料の中に、平成17年9月の大綱がありました。それと比較すると非常に分かりやすいものになったと痛感しています。

実は職場の職員にもこれを見てもらったんですね。そうしたら、「先生、こんなことが静岡市で展開されているんですか」と驚いていました。

なかなかこういうこと（市で行われている事業）が一般的には広がっていかない。

ですから、私としては今後大綱がどのように動いていくのかなと、広く市民の方にどのように展開されていくのかなということが非常に楽しみでもあります。

（表現等については）審議会の中でもいろんな意見があって、それを踏まえてたくさんのことを盛り込んでいくと大綱の基本的な方向性が揺らいでしまうのではないかとも思います。

以前の大綱に比べて、せつかくここまで削いで削いで、その中で必要な情報を残そうと作成されていますので、たくさんの事案を入れることが果たしていいのでしょうか。

また、将来を担う担い手のことについて「未来を創る人材の養成」を柱として計画に掲載されています。静岡市としてぜひ、次世代を担う人材の育成、特に生涯学習を背負う担い手についてはしっかり考えていかないといけないと思えました。

猿田委員 ありがとうございます。それでは吉田委員にお願いして、一回区切りを付けたいと思えます。

吉田委員 図についてですが、特に3ページのスパイラルの図は大事なイメージだと思いますが、本来であれば立体であるものが平面図になっているので、インパクトが弱く、渦巻いている部分が分かりに

くいと思います。ぜひ、立体をイメージできるような図にしてもらえた方が良いでしょう。

猿田委員 では事務局の方でお答えできるものがあればお願いいたします。

事務局 ご意見を色々ありがとうございます。

基本指針については、静岡市の計画に対する表現として違和感を持たれる方はいらっしゃると思います。林委員から、静岡市がなぜこういった表記をしているのかというところの説明を、というお話がありました。市長の思いで市民が理解しやすい大綱を、というところから始まっている部分もありますので、市長挨拶の中で説明させていただくというのが一番自然だと考えております。

文章の表現については、指摘されたものについてできるだけ修正したいと思います。

また、川合委員が言われた、来年度からこの大綱をどのように推進していくのかというところも今後大きな課題となっていくかと思っておりますので、大綱を策定して終わったと考えずに取り組みを進めていきたいと考えております。

図のデザインについては、業者の方のご意見も頂きながら分かりやすい図になるように頑張りたいと思います。

猿田委員 かなり重要なお話が出ているように思います。

一つは林委員のおっしゃった「どこの町の計画なのか」という味付けの部分についてのお話です。これについては、答申を作成する際にもご指摘があったところでもあります。

これは、第二次大綱の一つの限界とまでは言わないのですが、ここまで到達できたけれども、それでも必ず足りないところはあるものです。次の第三次の計画の中で、本当の意味で静岡らしいものを見出していき、そのような方向のご指摘でもあるかと思いました。

あとは、主な事業を示すことによって、むしろ誤解されないのかという辺りですね。

例示をすればするほど・・・というところで、この辺の見え方としては施策体系の図がとても大事なものであると思います。あくまでも例示だということがよく分かる表現にしていくことが大切かと思いました。

弓削委員がおっしゃった基盤づくりの指標をどうするかという辺りですが、まだ半分の方のご意見が残っておりますので、そのあとの話かと思っております。良い知恵があれば、後半の審議の中でお答えしていただければと思います。

ありがとうございます。それではまだご発言を頂いていない方をお願いします。日野委員お願いします。

日野委員 今回の修正版ですが、前半と後半の文章のバランスがよくない感じがしました。

また、色づかいでイメージを統一させる、色を使った誘導はとても分かりやすい印象です。その中で、「生涯学習推進体制」の色づかいは特に意味を持たせていないですね。せっかく色で誘導するなら、「生涯学習推進体制」にも上手に活かした方が分かりやすいのかなと思います。

それと、施策の三つの柱においては、「基盤づくり」が一番大事なところだと思います。これがしっかりしていないといわゆる自分の学びが身につかないし、それを活かして地域に還元できないというところになります。

特に、基盤づくりのソフト面は一番大事なところになると思います。ただ、このあたりの表現が抽象的で、言葉もどうしても専門的な部分について表現すると難しくなってしまうので、どの年齢層の市民にも分かりやすい言葉の言い回しにする工夫も大事だと思います。それと、このソフト面のところで静岡らしさを入れられないかなと思います。

猿田委員 ありがとうございます。杉井委員お願いします。

杉井委員 私が気になったのは12ページの「生涯学習推進体制」についてです。

本質的にはネットワークを行政、公共機関、企業、地域団体等で作るということについての異論はないのですが、この体制図の表現では、生涯学習が成人を対象にしてやるもののように感じてしまいます。

まず、内側にある社会教育・家庭教育・学校教育があまり連携されていないようにも見えるので表現の工夫をしてほしいです。

また、関係機関のうち「高等教育機関」は「教育機関」でいいのではないかと思います。小・中学校でも、地域の活動に参加したり、世代間交流を行ったりしていますので、主に推進していくのは高等教育機関になるのかなとは思いますが、あえて「高等」とする必要はないと思います。

連携を示す矢印も、できれば全部の機関が繋がっているような感じで丸い表現にした方がわかりやすいという感じがしました。

次に27ページの「成果指標」についてですが、生涯学習施設の利用者数は、ソフト面の指標の評価にはならないと思いました。

学習機会や情報がうまく提供できたのかというところが大きな鍵だと思うので、むしろそういう聞き方の方が良いのかなと思う反面、実質、生涯学習に取り組んでいる人がとても少ないので必要な情報が入手できるのかというと、少し厳しくなってしまうのかなという感じもします。

でも、「生涯学習に取り組んでいる人」を「施設を利用している人」と捉える視点が生涯学習活動の実施率の低さに影響していると思いますので、もう少し広い意味で捉えてもらった方が良いかなと思いました。

猿田委員 ありがとうございます。中野委員お願いします。

中野委員 まず、大綱を読んで、私も始まり方がすごく入りやすくなったなと感じましたし、ポイントとか色とか間とか全体的に優しいイメージ、暖かみのある色になって良いなと思いました。これなら中学生、高校生の方も読むのかなと思いますし、老眼の進んでしまった私でもすごく読みやすく思いました。

それで、さきほど磯山委員がおっしゃっていたように、後半になると字がずら一つと並んでしまっていますので、ここで読みたくなくなってしまうかなと思いました。

もう一工夫して字ばかりでなくカットも欲しいし、字の大きさなどに変化をつけて見やすくすると良いなと思いました。

それから、さきほど主な事業が二つだけではないとの意見がありました。そこについてのアイデアなのですが、例えば別枠で事業の紹介方法を出して他にも事業があることを示したり、もう少し色を付

けたりして見やすい形にするなど工夫できると思います。

それと、指標は大事だとは思いますが、こんなに（文字として）大きく載せなくてもいいのかなと思います。

猿田委員 ありがとうございます。では、青野委員お願いします。

青野委員 皆さんがおっしゃることを聞きながらそうだなと、自分が気が付かなかったことがたくさんあるなと思いました。

担当の方は、少しでも私たちの意見等を取り入れ、活かそうとして修正され、本当に大変だと思います。ただ、分かりやすくするために色々を変えたことで、前にこの文章は分かりやすく良かったところが、今度は分かりにくくなったというところもあるような気がします。

例えば、文章の表現としてですが、漢字なら漢字、ひらがなならひらがなで全体の文章が統一されていけば良いかなと思いました。

他にも、第二次静岡市生涯学習推進大綱がイコール「しずおか☆希望の人づくりプラン」なのだと、前のものでは添え書きしてあったと思うのですが、自然になくなってしまったような気がします。「大綱を人づくりプランと呼びます」という説明があるといいと思いました。

それから「はじめに」の部分に生涯学習の定義というか、考え方が出ています。

この文章も前の最初の文章と変わっています。前の文章の方が「ああ、生涯学習ってそういう考えでいいのか」と、難しいものではなくて自分たちもやっていることなのだなと気が付くような文章でいいなと思って感心していました。

その辺の表現が変わって、「社会との関わりの中で」とはっきり出して、これを生涯学習と言うとなっています。

確かに、社会との関わりのない学びはないのですが、自分がちょっと「見たい・聞きたい・知りたい」と思ってやったことや、友達や人との関わりの中でほんの少しやったことも生涯学習なのだよ、と捉えてもらった上で前向きに取り組んでほしいということを伝えるのであれば、前回の表現の方が非常にわかりやすい文章で良いのではないかと思います。

それから、「ゆるやかなつながり」という言葉が、今回の文章では「ゆるやかなネットワーク」となっており、その方が分かりやすく良いかと思いました。

猿田委員 はい、ありがとうございました。では、ここで事務局の方からお話をお願いします。

事務局 ありがとうございます。

12 ページの推進体制につきましては、連携の矢印を円にするとか、成人が対象と捉えられるデザインになっているというご指摘もありましたので、デザインをもう一度考えていきたいと思います。

それから、推進計画についてですが、ここは行政の事業計画となる部分ですので、前半に比べると、どうしても言葉が難しくなってしまうがちです。先程、レイアウトをもう少し工夫すれば見やすくなるのかもしれないということも言って頂きましたので、そのようにしていきたいと思います。

主な事業に関しては、それが一例であると分かるような形でもう一度検討したいと思い

ます。

基盤づくりの成果指標については、学習機会がうまく提供できたかどうかは、確かに指標として機能しづらいのかなとは思いますが。学習機会や仲間づくりができたかということが、イコール講座の参加者数という、そうではないのかもしれませんが。「基盤づくり」は、ハード面の環境づくりに加えてネットワークの構築といったソフト面を含めての基盤づくりなのだなということですが、それらを全て網羅する指標はなかなか難しいと感じていますので、推進課の方でもう一度検討したいと思えます。

それから、青野委員が言われた「はじめに」のところの文章ですが、前の方が良かったよということでしたので、そこは改めて考えます。

「しずおか☆希望の人づくりプラン」というタイトルについては、市長からの挨拶の中で、生涯学習推進に際して「人づくり」を大きな軸として進めていきたいという思いから「人づくりプラン」として題名を改めましたと説明していこうと思っております。

猿田委員 それでは私からもお話をしたいと思います。

まずは、「生涯学習の例」の図ですが、公共の一個人的という横軸がまっすぐ上に伸びていないという点が気になりました。そこが後から出てくる「スパイラル」とつながってこないと思います。学びの循環や学びのサイクルについては、公共と個人が折り重なっていくような、ダイナミックな形になる気がします。DNAの螺旋型のような感じになるかもしれない。そのあたりを少し検討してください。

それから、「まちづくりと人づくりのスパイラルアップ」の図も、まちの活性化から学びの場の活性化へのつながりが少し分かりにくいですね。学びの場が活性化されれば、学びが活性化されて、それが評価されて、まちが活性化する。

そこからまた学びの活性化に戻るあたりの理屈がよく分からなかったものですから、もう少し図を工夫したらどうかというところですね。

それから、「基本的な方向性・基盤づくり」の図については、協働性と実践性という言葉がなくても表現できるかもしれないと思います。

あとは、皆さんがお話になったことで共感する面は多かったですし、私が気付かないことも色々教えてもらえました。

文字については、大きくすれば分かりやすくなると思えず、要はメリハリだと思うのです。小さな活字でも見やすいということがあるので。

要所要所でメリハリが感じられるものになっていけば、本当に見るべきところというのが自然と目に入る。全てを大きくすると全部目に入ってくるので、結局意味がなかったりすることがありますので、そのあたりを冊子を作るときに工夫されて、完成させればいいのではないかなと思います。

では、その他にご発言あればと思いますが・・・。

林委員 先程、お話がありましたが、基本的に生涯学習に関してコーディネーターにあたる人はどうしても欲しいなと思います。そこがまず、一番の決め手ではないかと思ひまして。市の職員ではなくて、そのような人達を養成していくということをどこかにぜひ入れていただきたいなと思っております。

猿田委員 その辺が基盤づくりに活かせる人材養成ですね。

それはまさに、行政だけではなくて市民がその施設の運営面にも役割を果たしていけることにもつながり、より市民に身近な施設の実現を目指すための重要な要素かと思います。

川合委員 質問ですが、この大綱には資料編は作るのでしょうか。作るのであれば、どのようなものを作るのでしょうか。

事務局 最初に表紙の挨拶と目次をつけて、そこから今、お配りしている大綱の本文につづきます。その後ろに答申があって、昨年度行いました市民アンケートの結果をつけるということは決まっていますので、だいたい150ページくらいの冊子にはなるかと思います。

川合委員 そうすると、その中で生涯学習センター等の一覧や推進計画案は入るのでしょうか。こうした資料は細かく記載されており、非常にいいなと思っております。

事務局 前回の大綱にも各施策一覧が掲載されていきました。今回の案では、主な事業だけを載せる形をとりましたけれども、おっしゃられたように施策名、事業名というものも載せた方が分かりやすいのかなと思いましたが、ただ、必ず8年間継続して行う事業ばかりではないので、改めて検討させていただけたらと思います。

猿田委員 ありがとうございます。では、よろしくご検討下さい。他にいかがでしょう。

石川委員 現在、スポーツ振興計画を策定しております。私はそちらの方にも委員として出席しております。そちらの会議の中で、スポーツ振興計画に生涯学習進大綱ともリンクする話をぜひ入れて欲しいということを提案したものですから、先程言いました通り、このプランにもスポーツ関係のことを折り込んでいただきたいなと思います。

猿田委員 渋谷委員をお願いします。

渋谷委員 ESDのことですけれども、やはり全般的にまちを創ることだけになっていて、まちを越えた課題に関してはほとんど出てきていないので、それを入れていくことが必要だと思います。まちを越えた社会、世界といったものの表現、「持続可能」という表現がどこかに入ると良いのかなと思います。

「基本的な方向性・基盤づくり」の図では、「自己学習」では「地域や社会のことを学ぶ」とありまして、「市民活動」だと「地域の課題」だけになっていますので、例えば、ここに静岡のことだけではなくて社会についても少し入れていただくこともできるのかなと思います。重要な視点ですので、どこか入れられればと思っています。

もう一点は、皆さんのお話を伺いながら見直して思った点ですが、「生涯学習施設における学習環境の充実」についてです。

これは「安心・安全な学習環境づくり」の①の柱がハード面で②の柱がソフト面ということかと思う

のですが、この記述と18ページの②「学習機関の提供」の内容が、どちらも講座や活動の推進のことになっているので、重なってしまっているのかなと思います。

「生涯学習を行う上で障害のあるものは除く」事業については、むしろ誰もが安心・安全に学べる環境づくりに入れて頂いた方が良いのではないのでしょうか。

施設のハード面ではなく、サービス面の環境整備の具体的な内容、例えば、障害のある方も利用しやすいようなサービスや、乳幼児であるとか小さいお子さんと一緒でも利用しやすいようなサービスであるとか、それから施設の利用についてのアンケートを行って声を聞いたり、懇談会を持ったりして環境を改善するような試みとか、ハラスメント、例えば、男性だけとか女性だけとかだと入りにくい雰囲気だったりとか、そういった内容を「安心・安全な学習環境づくり」に入れて頂いた方が重なりはなくなるのかなと思いました。

猿田委員 ありがとうございます。よろしいでしょうか。

最後に、27ページの成果指標についてもアイデアが出ればと思います。

この施設利用者数というのは、「市民の自主的な活動で使うところがある」「使えるものがきちんと用意されている」ということを測る数字で、主体事業のことを言っているのではないと思うのです。

そういった意味では、人数よりもむしろ回数でもいいかもしれませんね。利用された方が、二人でも三人でも人が集まってそこでなにか話し合いが行われている、学びがある、地域のことを考え合っているということがあればそれはとても貴重なことと思います。

センターや交流館を地域の拠り所として、NPOや地域団体、その他の団体も含めてどの程度利用されているのかというのがまさに基盤の良し悪しになってくるという発想の成果指標かと思います。目標値である146万人というのがいくつになるかは分からないのですけれども、その視点は一つあるかと思いました。

また、ネットワークという意味ではNPOとの連携事業がどんなものがあるかという視点も大事だし、大学で提供している公開講座を共催型でやっていくかとか、そういういったことも一つの基盤を示す成果指標になるかと思います。その辺も考慮していただければいいかなと思います。

それから、施設の一覧表はつきますかという川合委員のお話も大事なことで、やはり、関連施設という認識をもう少し浸透できないかなと思います。

市には、青少年施設であったり、工芸であったり、スポーツ、文化といった体験型の施設が多いですよ。むしろ、そういった地域施設的ではなく、観光にも使えるような機能を持っているような施設や、健康づくり、文化振興等も視野に入れた生涯学習関連施設というものも示すためには、一覧がいるかなと思います。老人福祉センターや児童館も入ってきますね。そういった見取り図を大綱に合わせて入れてもらおうと、資料集という意味では市民の活用価値が上がってきますので、よろしくお願ひしたいと思っています。

課長 ありがとうございます。先程、担当の藤本の方から説明させていただきましたが、大綱の出来上がりは（いろいろな資料をつけるので）膨大になるかと思います。

そうしたことから考えれば、皆様からご意見を頂いたように、前半のコンセプトをもっと簡単な形に表して、資料として施策一覧や計画の体系図を付ける。その方がもっと簡略化して分かりやすくなると

思いますので、その辺を改めて検討させていただきます。

ご指摘を頂きました点についても、例えば施策の柱については「学びを活かせる」ではなくて「活かす」に修正させていただきます。色々とありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。

猿田委員 細かく対応をすると言葉数が増え、簡潔な良さが失われ、良いところも薄まってしまうというところが悩ましいところがあります。ご意見はご意見として受け止めておく、という割り切りも必要かと思えます。

今日の議論は、少しでも良い大綱にしていこうという委員の皆様のお気持ちが出るようなやり取りが多かったと思いますが、後はどういう形になるか事務局にお任せして、私自身は出来上りを非常に楽しみにしております。

それから、来年度から大綱が始まるにあたって、我々も責任の一端を担った者として、進捗を拝見していくことが大事だと思います。事務局だけでは解決できないことについては、それぞれの立場を代表して来られている方、市民の代表としてチェックして頂いた方々ですので、委員ともども連携しながらより良い生涯学習推進行政を進めていただければと思っております。

2年間の中で、ご迷惑を掛けたりしましたし、事務局をなかなか煮え切らないところとで振り回すことも多かったかもしれませんが、本日ご欠席の菅野副会長共々、一応私なりに役割を果たさせていただきました。

これも皆様方のご協力のおかげだと思いますので改めてお礼を申し上げます。その上で事務局には、より良い成果を上げて頂くようお願いをして、ここで議事を終わらせて頂いて事務局にはお返ししたいと思えます。どうもありがとうございました。